

商売になるのだろう、この業者は交配を行い良個体を作っている、4媒体の大きな花も多く良い色の物は非常に高価で？万円するとか、趣味のある人は小型の株を求めていた。ちなみにこの店のオーナーはクライスラーにのっていた。



温泉タマゴを作るガイド



キーリーの山取株とキーリーの娘さん



今日は少し早いホテルに入。ここはリゾートホテルでヨーロッパ系の客が多く日本人は見られなかった。チェンライに入ってから日本人がほとんど見られず、ホテル、店で日本語は通じず英語での会話となる。ホテルで夕食をとり、タイ最後の夜はカラオケに顔を出して早めに就寝。
2月20日

郊外の少数民族「アカ族」の村を訪ねる。郊外の小高い丘にその集落があった。観光収入で生活している感じで、写真を撮ると手を出してくる、何か英語らしき言葉を話すが我々には理解できない。20バーツ(60円)渡すと喜びサンキューと言い、にこにこ顔。



少数民族 アカ族

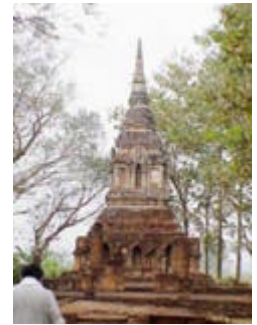
国境町チェンセーンに向かう途中、遺跡 WAT PASAK を見学した。メコン川向こうにラオスを見渡せる高台に上り、ラオスを見下ろすと、小さな村々が見える程度でほとんどが森林に覆い尽くされている。タイとの交流は盛んで、夕方になると沢山の水牛が船で運ばれてくるらしい。タイ側の川沿いは商店がずらりと並びラオスの商品基地を感じさせる。



メコン側の向こうがラオス



ゴールデン・トライアングル



ワット・パサック

昼食をメコン川岸で取り、3国国境を見渡せる丘に上がる。ゴールデン・トライアングルの碑が建っていて、左がミャンマー、右がラオスである。ちなみに国境線は川の一番深い所だとガイドから教わる。記念撮影をしてからメコン川のボートツアーに向かう。

ゴールデン・トライアングル(黄金の三角地帯)は、かつて麻薬の売買で悪の巣窟とされていた。しかし、最近では近隣の国が安定し国際貿易の拠点となっている。麻薬の栽培は今はミャンマー領で行われ国の資金源となっていると聞いた。

ボートツアーは小型船に自動車のエンジンを付けたタイ特有の船であり、少し怖い感じがする。救命胴衣を来て3人と4人で2つの船に分乗し、ミャンマー国境、ラオス国境をかなり高速で走